

★ 提案6に賛成の議論 ★

提案6: California州の刑務所制度における奴隷制の廃止

提案6に賛成投票をしてください。提案6は、California州内であらゆる形態の奴隷制および強制労働を排除し、拘禁状況に関わらず、いかなる人もそのような状況に置かれないことを保証します。

提案6は、奴隷制を構成し人権を侵害する強制労働を終わらせることで、人間の尊厳を回復します。受刑者は尊厳を持ち、自らの意思でリハビリテーションの道を追求する権利があります。強制労働はリハビリテーションの目的を果たしません。この修正は、自主的な仕事の割り当てを認めるという道徳的必要性に焦点を当て、人権の重要性を強調しています。

提案6は、リハビリテーションを優先することで公共の安全を向上させます。刑務所での強制労働は残酷で不公平であり、しばしば暴力、独房監禁、サービスの拒否などの厳しい罰に繋がります。これらの行為はリハビリテーションを損ない、再犯の可能性を高めます。これに対して、提案6は刑務所内での自主的活動プログラムを拡充し、尊厳、選択、リハビリテーションを確保します。受刑者は、自発的に教育、職業訓練、その他California州民に対する犯罪を防ぐためのプログラムに参加します。

奴隷制度の廃止は、超党派の優先事項であり、広範な支持を受けています。ACA 8(現在の提案6)は、議会で満場一致で可決され(68対0)、上院でも圧倒的な支持を得て可決されました(33対3)。California州は依然としてこの慣行を許している16州の一つであり、改革の緊急性を強調しています。

提案6は、California版の第13条修正における抜け穴を閉じることで全国的な運動を支持しています。連邦法を変更するものではありませんが、California州内での強制労働を防ぐことで正義を維持します。ボランティアの仕事プログラムは、スキルの習得とリハビリテーションを提供することで再犯率を減らし、元受刑者が社会に再統合するのを支援します。尊厳に根ざした生産的な仕事は、元受刑者がその労働経験を証明として活用することで、再統合を可能にします。

多くの州が憲法を修正し、特定の条件下で強制労働と強制従事を許可する抜け穴を閉じています。これには、有権者からの大きな支持が含まれます: 2018年のColorado州では66%以上、2020年のUtah州では80%以上、Nebraska州では68%以上が支持しました。2022年には、Alabama州で76%以上、Oregon州で55%以上、Tennessee州で79%以上、Vermont州で88%以上の支持を得ました。Nevada州も2024年の選挙でこの問題を有権者に委ねています。さらに、連邦議員は、この会期中にJeff Merkley上院議員とCory Booker上院議員が提出した上院共同決議33号、そしてNikema Williams下院議員が提出した下院共同決議72号で、13条修正の抜け穴を閉じるために動いています。

Lori Wilson、州議会議員
California州議会

Dolores Huerta、専務取締役
Dolores Huerta財団

Stephen Downing、元副署長
法執行アクション・パートナーシップ

★ 提案6に反対の議論 ★

提案6に反対する意見は提出されていません。